

活動報告書

実施日	令和1年10月26日（土曜）
目的	中山間地域における新しい産業として考えられる「苔」栽培について先進事例を学ぶ
視察先・調査先	宮城県栗原市 栗原森林組合 「全国苔フェスティバル」会場
内容及び結果	<p>対応者：栗原森林組合理事長 日本苔技術協会代表 北川義一氏 同行者：上越市牧区在住農家 佐藤恵一氏</p> <p>添付資料参照</p> <p>中山間地域における休耕田の活用に希望が持てる素材だと感じた。すでに実用化されている地域もあるので、今後は地域性を考えながら活用の方策を探っていきたい。</p>
備考	令和1年9月議会の一般質問

中山間地域の農業は急斜面が多く、園芸にはむかない。米作が頭打ち状態の現状を考えると、今後は近隣の森林・草原を活用した新しい取り組みが求められると思う。

牧区をはじめとした旧東頸城地域には無数種類の苔が生育している。これらを活用して、農業分野での産物として売り出していくことができないか、この度初めて開催される「全国苔フェスティバル」に参加した。

会場では「苔博士」北川義一氏によって採取された多種天然苔の展示と生息実態の説明、全国の苔業者による即売会が行われたほか、苔を使ったテラリウム、苔玉などの手作り教室もあった。関係者の話を聞く限りでは、全国的に静かなブームが起こっているらしい。三条市から出店しておられた「らんぼくの里」様によれば最短でも隔年にしか収穫できないという苔の生育事情をよく理解して計画を軌道に乗せることができれば、勝算が生まれるそうだ。

今回地域おこし協力隊として胎内市に一人の女性が登用された。彼女は苔に興味を持って、苔栽培に関心を持つ農家の方々と共に生産組合を作っている。二年目なのでまだもうけは出ていないが、農家のみなさんにとっては魅力的な副業となる事が期待されているのではないか。

牧区や東頸城地域では積雪が多いため、苔を大きく育てるうえで障害がある。苗床となるプラスチック製の容器は雪に弱いので、割れさせない方法を探し出さなくてはならない。

また東大阪地域から出店されていた城東社中さんは、障害者雇用などの福祉分野で活躍された。苔を使った製品開発の現場で障害者もしっかりと働くことができることを紹介されている。農福連携の新しい可能性が見えてくることも嬉しい。



報告者：櫻庭節子